



弘前大学資料館第41回企画展

ボランティアセンター
東日本大震災復興支援活動
～15年の歩み～

主催：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
弘前大学資料館

入場無料



令和8年

2月3日(火)～3月27日(金)

10:00～16:00 (入館は15:30まで)
日曜・祝日休館

※都合により開館時間の変更、臨時閉館がございます。

場所：弘前大学資料館（文京町地区キャンパス）

お問い合わせ先：弘前大学資料館（電話）0172-39-3432（メール）jm3432@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター（電話）0172-39-3268（メール）huvvc@hirosaki-u.ac.jp

詳細はこちら



弘前大学資料館第41回企画展

ボランティアセンター 東日本大震災復興支援活動～15年の歩み～

東日本大震災から15年が経過した現在、日本各地では地震・豪雨・豪雪などの大規模災害が頻発しており、地域社会には「平時からの備え」と「発災時の迅速な連携体制」の重要性が改めて問われています。とりわけ地方においては、限られた人的・物的資源の中で、いかに官民学が連携し、持続的な復興支援を実現するかが大きな課題となっています。

弘前大学では、東日本大震災発生当時、学内に常設のボランティアセンターが存在していませんでした。しかし、被災地支援の必要性を強く認識した教員有志が中心となり、学生、市民、市民団体、行政と連携しながら、即応的に支援体制を構築しました。その過程で誕生したのが、官民学が一体となった「チーム・オール弘前」です。

チーム・オール弘前は、被災地での復興支援活動を継続的に展開するのみならず、その後も除雪支援、子どもの貧困問題、孤独・孤立対策など、地域が直面する多様な課題に対して、地域に根差した実践的な活動を続けてきました。このように、地域の大学が起点となり、官民学連携によって復興支援と地域課題解決を両立させてきた事例は全国的にも珍しく、「弘前モデル」として日本災害復興学会などでも注目を集めています。

本展示会は、東日本大震災復興支援活動の15年を振り返り、弘前モデルがどのように形成され、どのような試行錯誤を経てきたのかを可視化することで、大規模災害に直面した際に地域の大学が果たしうる役割と、その可能性を広く共有することを目的とします。過去の経験を単なる記録として残すのではなく、今後も続くであろう災害への備えとして、その教訓を次世代へ継承する場とすることを目指します。

—主な展示内容—

東日本大震災発生直後から現在に至るまでの弘前大学およびチーム・オール弘前による復興支援活動の15年の歩みを、「記録」「映像」「体験」を組み合わせた構成で紹介します。

- パネル展示
- 活動動画上映
- 避難所体験コーナー
- 文化財レスキュー活動展示

非常食の実態を知り、
日頃の備えの重要性を感じていただくために、
アルファ米の無料配布を行います。

弘前大学（文京町地区キャンパス）マップ



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター

HP



Instagram



X (旧Twitter)

